

つながる すみだ人

私の好きな すみだ

今月の1枚
「コロナに負けない！
世界一の東京スカイツリー」
【撮影】山ノ井 法子さん

本コーナーへの写真を随時募集しています。
詳細は区ホームページをご覧ください。
【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



鈴木秀明さん(緑在住)

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に次の方を紹介していただき、すみだを愛する人でつないでいきます。第42回は、「キックボクシングで墨田区を元気に」という想いでムエタイ&キックボクシングジム「STRUGGLE」(業平4-2-15-2階)を運営する鈴木秀明さんです。

Q. すみだでどのような活動をしていますか？

元々アイロン工場だったこの場所でジムの運営を始めて、今年で17年目を迎えます。

私は、ムエタイとキックボクシングの元選手で、現役時代には3つのベルトを獲得しました。ジム名の由来は、英語の「もがく」です。格闘技ジムやスポーツジムって、ゴーやファイトなどポジティブな言葉が多いですね。これまでの経験から、辛い練習や試合を一生懸命頑張って、もがいた先

には必ず良いことがあると思っています。だからジムでも、何かを必死に頑張ることで、例えば、練習した後に飲むジュースがおいしい、なんて些細なことでも、日常にプラスの変化があるようにと思って指導しています。また、会員一人ひとりが、私にとってダイヤモンドの原石。私たちスタッフが研磨して輝けるようにと願いを込め、ジムのロゴにはダイヤモンドをあしらっています。

Q. 現在の活動を始めたきっかけは何ですか？

実は小学生の頃から学校が苦手で、小学校6年生の途中から中学校の3年間は、ほとんど学校に行かずひきこもっていました。その後、通信制の高等学校に入学し、逃げずに頑張ろうと思ったとき、キックボクシングに出会いました。その後、一生懸命キックボクシングに取り組むようになったら、周囲の方が応援してくれるようになるなど、徐々に周りの景色が良い方向に変わっていきました。しかし、タイのチャンピオンをめざす最中

に目を負傷してしまい、志半ばで引退を選択しました。引退後は、トレーニング施設で働いていましたが、人生は一度きり。キックボクシングを改めて学び直し、私が持つ技術を教えることで地域の人を元気にしたいと考え、キックボクシングジムを運営することにしました。もしも負傷していなかったら、ジムを運営していなかったかもしれません。そう考えると、何事もポジティブに捉えることが大事だと感じています。



▲私とジムに所属するプロ選手が指導にあたります。現在は、人数制限や完全予約制を導入するなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら運営しています。

▼区内企業に相談し製作したジムのタオル。タオルなどのグッズは、区内企業で製作したいという強い願いがあります。



Q. 鈴木さんは、すみだのどんなところが好きですか？

温かい方がすごく多いと思っています。元々は愛知県出身ですが、引退後に東京に引っ越しました。どこに住もうか考えているときにすみだを通りかかり、下町の雰囲気に着かれて住み始めました。都内に住む人って通勤などで入れ替わりが多い印象がありますが、すみだの人って地元に住み続ける方が多い気がします。だから、人付き合いも自然と長くなるんです。とても住

みやすく、いつの間にか出身地よりすみだの方が好きになりました。おまけに、試合会場がある地域にアクセスしやすいのも嬉しいですね。あとは、すみだには様々な企業があるので、Tシャツなど何かを製作したいときは、区内の企業を調べて飛び込みで相談したり、会員の方につないでもらったりして製作しています。そんなことができちゃうのも、すみだを好きな理由の一つです。

次回登場してくださるのは・・・

古着屋 OCTAGON CLOTHING を営む傍ら、区内企業と協力し古着からリメイク品を手掛ける等の製作を行う丸井 憲一郎さんです。
【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



夢

佐渡 裕氏、「すみだ音楽大使」就任

墨田区長

山本 亨

本紙3月21日号でもお知らせしましたが、すみだトリフォニーホールを活動の本拠地とする新日本フィルハーモニー交響楽団(以下、新日本フィル)の第5代音楽監督となる佐渡裕さんが、「すみだ音楽大使」に就任しました。佐渡さんは、世界屈指の楽団で客演を重ねられ、すみだトリフォニーホールでも数多くの公演を指揮されてきましたが、今後は、小・中学校へのアウトリーチや区民参加型の公演にも携わり、皆さんと一緒に音楽を楽しみたいと話されています。今年はすみだトリフォニーホール開館25周年、新日本フィル創立50周年の節目の年です。佐渡さんをはじめ、新日本フィルの皆さんと連携し、音楽がもつ力で魅力あるまちづく

りを進めていきますので、どうぞご期待ください。さて、長引くコロナ禍で多くの方が健康に関心をもたれていることと思います。区民の皆さんの健康づくりに関わる課題は、感染症対策・健康寿命の延伸・健康格差の解消・データヘルスやDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進・災害医療など多岐にわたります。こうした課題への対応や、向島・本所両保健センターの老朽化等を受け、横川五丁目に新保健施設等複合施設の整備を進めています。この施設は「つなぐ・つながる」をコンセプトに、保健所・子育て支援総合センター・教育センターの機能を併せ持ち、部門間の連携をより強化することで、区民サービスの向上を図っ

ていきます。また、災害時には、支援物資の荷さばきや分配を行う「地域内輸送拠点」としての機能も担います。令和6年度中の開設をめざし、先月着工しましたが、ポストコロナ時代に対応した「健康づくりの拠点」として、誰一人取り残さない生涯健康都市の実現につなげていきます。



すみだトリフォニーホールで佐渡 裕氏と

